

愛知県立岡崎聾学校（聴覚障害）

1 学校概要

設置部・設置学科	幼稚園・小学部・中学部・高等部
特色ある取組	
小学部では、「ペンタゴンプロジェクト」と称して、北海道旭川聾学校、島根県立松江ろう学校、熊本県立熊本聾学校、国立大学法人筑波技術大学〔茨城県つくば市にある聴覚・視覚に障害のある人を対象にした日本唯一の国立大学〕、そして本校の5校をオンラインでつないで、交流を深める取組を行っています。さらに、高等部では、国立大学法人筑波技術大学と連携協定を結び、高大連携授業を実施しており、本校にいながら大学の先生から授業を受けることができます。	
地域とのつながり・地域での役割	
西三河地区の聴覚障害教育の拠点校として、0歳から18歳までの乳児、幼児、児童、生徒の教育相談や、通級指導を行っています。 幼稚園はレオナ第二幼稚園と、小学部は岡崎市立岩津小学校や岡崎市立恵田小学校と、中学部は岡崎市立岩津中学校と、高等部は岡崎商業高等学校とさまざまな交流を行っています。中でも、恵田小学校との「落ち葉スキー交流」は毎年テレビや新聞等でも紹介される特色ある交流となっています。	
高等部卒業生の主な進路実績	
<進学> 国立大学法人筑波技術大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、人間環境大学、愛知障害者職業能力開発校、名古屋聾学校専攻科 他 <一般就労> 岡崎市役所、トヨタ自動車（株）、（株）デンソー、（株）豊田自動織機、（株）アイシン、トヨタ車体（株）、トヨタ紡織（株）、（株）マキタ、アラコ（株）、トヨタグループ（株）、三菱自動車ウイング（株）、（株）デンソーエアシステムズ 他 <福祉就労> けやきワークス、ジョイナスつかさ、シャイニング 他	
一言アピール	
本校は、令和7年度、創立122年目を迎える伝統ある学校です。全校で107名の幼児児童生徒が通う東海・北陸地区で最も大規模な聾学校となっています。令和元年10月に始めた学校ブログは、たくさんの来訪者があり多くの方の関心を集めています。是非一度ご覧になってください。（「岡崎聾学校 ブログ」で検索）	

2 スクール・ポリシー

このような幼児児童生徒の育成を目指します
○自ら考え、主体的に行動する幼児児童生徒 〔教育目標〕 ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準ずる教育を推進します。 ・障害による困難を克服し自立を図るために必要な知識、技能、態度及び習慣を養います。 ・幼児児童生徒の優れた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図ります。 ・「生きる力」を育むことにより、社会自立への基礎を培います。 <幼稚園> ・基本的な生活習慣・態度を身に付け、健全な心身で元気に生活する幼児 ・自然などの身近な事象に興味をもち、豊かな心情や生きる力の基礎を備えた幼児 ・言葉に興味や関心をもち、日本語の基礎を身に付けた幼児 ・自立と協同の態度及び道徳性の基礎を身に付け、集団の中で主体的に活動する幼児 <小学部> ・ひと・もの・ことへの興味・関心をもち、主体的、意欲的に物事に取り組む児童 ・学習習慣を身に付け、学力の向上を目指す児童 ・自己の障害や特性を肯定的に受け止め、積極的に周りに働きかけコミュニケーションを図る児童 ・思いやりの心をもち、友達と協働できる児童

＜中学部＞

- ・基礎基本の学習を大切にし、学力の向上を目指す生徒
- ・自ら学び自ら考え、意欲的に取り組む生徒
- ・障害認識を深め、さまざまなコミュニケーション手段を工夫する生徒
- ・豊かな心を持ち、社会性が身に付いた生徒
- ・健康で安全な生活を実践する生徒

＜高等部＞

- ・進学先や社会で必要な学力や社会性を身に付けた生徒
- ・自己の課題を発見し、その解決のための工夫や努力を継続して行える生徒
- ・他者との対話を通して、コミュニケーション力を高めようとする生徒
- ・自他を尊重し、心身共に健全な生徒
- ・自己の障害や特性を理解し、自己の可能性を最大限に生かせる生徒

このように学びます

＜幼稚部＞

- ・遊びを中心とした総合的な活動を楽しく展開し、その中でコミュニケーション力の向上と日本語の獲得を促します。
- ・異年齢集団でダイナミックに活動を展開し、主体的な遊び、関わり合いを促します。
- ・個々の幼児の障害の状態に応じ、聞こえ・言葉・発音の指導を個別に行います。
- ・日々の授業の参観や保護者教室を通して、保護者の子育てを支援します。
- ・近隣の幼稚園や地域の保育園等との交流及び共同学習を行います。

＜小学部＞

- ・さまざまな体験活動を設定し、児童の興味・関心を引き出し、意欲を高めます。
- ・ＩＣＴ機器を活用したり、個に応じた支援を行ったりして、分かる授業を展開し、基礎学力の定着を図ります。
- ・話し合い活動やグループ活動を効果的に取り入れ、コミュニケーション力を高めます。
- ・読書活動を充実させたり、読んだり書いたりする活動をあらゆる場面で取り入れたたりして、日本語力の向上を図ります。
- ・児童会活動や他校との交流及び共同学習を推進し、協働の態度を養います。

＜中学部＞

- ・生徒にとって楽しく分かる授業を実践することで、教科学習の基礎的内容を習得させ、学習に対する意欲・関心を高めます。
- ・毎朝の読書活動とコラム学習を通して、日本語力の向上を図ります。
- ・考える場面や話し合い活動を設定することで、思考力や応用力を高め、自ら進んで学習する態度を養います。
- ・職場実習等の体験学習や交流及び共同学習、自立活動の時間を通して、コミュニケーション力を育みます。
- ・規則正しい生活習慣を意識し、体調管理に努めるように啓発します。

＜高等部＞

- ・中学校までの復習から大学進学対策まで、進路希望に応じた複数の教育課程を設定し、指導します。
- ・現場実習や進路探究の授業を通して、働くために必要なことは何かを生徒自身が深く考え、実践できるようにします。
- ・日本語力の向上を目指した授業や教育活動を実践し、生徒同士の主体的な対話を重視し、コミュニケーション力を育みます。
- ・交流及び共同学習や部活動を通して、他者を思いやる心や自己を高めようとする態度を育みます。
- ・あらゆる教育活動の中でＰＤＣＡサイクルを活用し、生徒自らが自己の課題を解決する力を養います。